



目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・	1
この冊子を使われる皆さんへ・・・・・・・・	2
教室活動プラン	
1 自己紹介しよう。・・・・・・・・	7
2 自分の事を話そう、人の事を知ろう。①	21
3 自分の事を話そう、人の事を知ろう。②	33
4 買い物に行こう！・・・・・・・・	43
5 出かけよう！・・・・・・・・	53
おわりに・・・・・・・・	67

はじめに 一地域で日本語を学ぶお手伝いをしている皆さんへー

私達が活動している「日本語教室《呉》」は1993年に呉市教育委員会が市民に協力を呼びかけて開設した教室です。以来行政と市民との協働でさまざまな活動を展開してきました。今回、呉市教育委員会と教室を運営している市民グループ「ひまわり21」とで、私達の町で暮らす外国籍市民の生活に根ざした分かりやすい教材を作ろうと、文化庁の地域日本語教育支援事業（教材作成）に応募し採用されました。

私達の町に暮らす日本語を学ぶ必要がある市民の大半は、日々厳しい状況の中で働く人々です。そんな中教室にたどり着いた学習者が、日本社会に温かく受け入れられているという実感を得て、日本語を話すことを楽しいと感じて欲しい、意欲を失うことなくできるだけ長く教室に参加し続けて欲しい、私達の町で生活する上で必要なことを楽しみながら学んで欲しい、そうした願いをこめた教材作りに取り組みました。身近な内容の視覚教材を作り、学習者と周囲の人々・地域社会をつなぐことを念頭に置いた、〇初級対象の教室活動プランを作りました。

作成においては、できるだけたくさんの学習者やスタッフに関わってもらえるように工夫をしました。まず作成する為の情報を得るために、学習者が教室の仲間達にインタビューしました。私達は毎週1回時間と空間を共有していますが、各グループでの活動に終始しがちです。インタビューは学んだ表現を生きたものにし、教室内の人と人を結ぶ役割を果たしてくれました。そして、作成途上の教材や活動プランを実際に使いながら修正していきました。その時の学習者の反応は、作成に携わる私達にとって最も貴重なアドバイスでした。さらに活動プランで使うことばや表現を、現在私達の教室で学んでいる学習者の母語である、ポルトガル語・中国語・インドネシア語・タガログ語に訳して対訳表を作りました。対訳表は学習者とスタッフの協同作業で取り組みましたので、お互いにとても楽しく「ことばと文化」を学ぶことができたようでした。

このように教材づくりの作業を進めていきましたが、作成に関わるスタッフや学習者の顔が次第に輝きを増してきました。いい教材に仕上げることはとても大事なことです。地域日本語教室で教材づくりに取り組む場合は、「どのようにして作るか」ということが、より一層重要なのだと思います。皆さんの教室でも「わが町の日本語教材」を教室に参加する人々の力を合わせて、楽しみながら作ってみてはいかがでしょうか。

「手をつなごうー全員参加の教材づくりをめざしてー」 執筆者一同

ーこの冊子を使われる皆さんへー

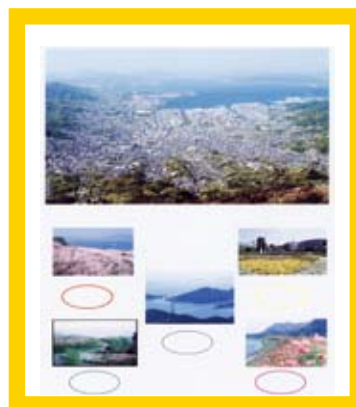
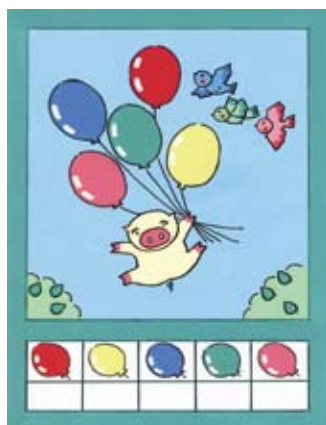
今回の取り組みで作ったものは次のとおりです。いろんな思いをこめてみんなで作りしました。それぞれの教室に応じて形を変えて使ってみてください。

① 参加カード

毎日忙しく働いている学習者は、毎週日本語教室に参加できるわけではありません。初級1コース（5回）への参加状況を把握する為に参加カードを作りました。1～5の活動を経験した日を書き込んでもらって、コース終了まで教室で預かります。

絵を描くのが好きなスタッフや学習者に協力してもらって、新しい仲間への「ようこそ」の心をこめて、いくつものパターンで用意しました。

自分の好みのカードを選ぶことから活動を始めると、きっと楽しいだろうと思います。新しい世界に飛び込む緊張を、このカードがほぐしてくれたら嬉しいです。



② インタビューシート すみません、ちょっときいてもいいですか？

教材づくりや教室活動プランで取り上げる内容は、できるだけ教室に参加している学習者の生活にそったものにしたいと考えました。

そこで教室内でインタビューをして、その結果を教材づくりに反映させることにしました。インタビューは教室活動に組み込みました。インタビュー項目の表現を学び、その練習として学習者に取り組んでもらったのです。みんなで楽しみながら、データを集めることができました。

この取り組みは、その後「スタッフに聞いてみたいこと」「得意なことはなんですか？」といった内容で続いています。今後はインタビュー結果をポスターにして教室全体に知らせたり、グループの枠組みをはずした新たな教室活動に展開させたりしていこうと思っています。

[illegible]

すみません。ちょっと 聞いてもいいですか？

・おなまえ は？ _____

・おくに は？ _____

・どこで かいもの を しますか？ _____

・どこで あそびますか？ _____

・すきな ばしょは どこですか？ _____

・すきな おかしは なんですか？ _____

・すきな のみものは なんですか？ _____

おわりです。ありがとうございました。



③ 教室活動プラン

来日間もない日本語がほとんど分からない外国籍市民が私達の教室に来て、まず教室の仲間と知り合い、そして地域社会へ飛び込んでいくために、次の5回の活動を考えました。

1	自己紹介しよう。	はじめまして、ひまわりです。
2	自分の事を話そう、人の事を知ろう。①	家族を紹介します。
3	自分の事を話そう、人の事を知ろう。②	好きなもの、好きなことを言いましょう。
4	買い物に行こう！	欲しいものを探して買いましょう。
5	出かけよう！	お出かけに誘いましょう。

活動 1～3 は、出会った人に自分のことを話して知ってもらい、質問をして相手のことを知ることが目的です。学習者の友達作りのきっかけになればと考えています。また活動 4～5 は、積極的に町を出歩き、できれば知り合った周りの人と遠出をする気持ちになってくれたら、という思いで作りました。

各回の活動は、グループ内の学習活動に留まらず、教室全体あるいは地域社会を利用した学習となるように工夫しました。この初級1コースを終えた人たちの為に、教室全体の取り組みとして修了式を開く予定です。その日は修了者達とスーパーで待ち合わせをして、飲み物やお菓子を買って教室に参加し、修了式で簡単なスピーチをするという番外編の活動をしようと思っています。

この5回の活動は、必ずこの順番にしなければならないというものではありません。私達の教室には毎週のように新しい参加者が来ます。この初級1コースには、いつどんな人が参加するのか分からないのです。ですから、どの回から始めてもいいし、もし途中で休んでも、次に来た時に楽しく参加できるように配慮しました。

また同様に、各回の活動プラン、絵カード等の教材も、あくまでも一つの例にすぎませんから、これらを参考にして、それぞれの地域、教室の実情、担当するスタッフの個性に合わせてアレンジをしていただければと思います。

④ 活動時に使うもの

* 絵カード

絵を描くことが好きなスタッフが日常生活を観察して、現実にあるものをシンプルにデザインして描きました。学習者は市販されたカードを使った時にはない笑顔を返してくれます。心が温くなる絵カードができました。

この絵カード達は、さまざまな場面でいろんな意味を伝えて活躍してくれると思います。

私達の教室には、絵が得意な学習者やスタッフがたくさんいますから、今後は一緒に取り組んで枚数を増やしていきたいです。

* 写真カード

インタビューの結果をもとに、場所・建物・商品などの写真を撮ってカードにしました。冊子では教室活動プラン「4 買い物にいこう!」で使う商品カードを絵カードにしていますが、私達の教室では写真カードを使っています。

写真を使って活動した方が楽しいですし、多くの情報を引き出すことができます。スタッフの中には、教室周辺の地域の様子を知らない人もいます。写真を見ながら学習者がお店情報を

教える場面も出てきて、会話がはずんでいます。

冊子への店舗の写真掲載について、各店にお願いに行き教材作成の意図を伝え見本をさし上げました。地域社会と外国籍市民をつなぐことが、日本語教室の役割の一つだと考えていますが、今回の働きかけは外国籍市民への一つの後方支援になったと思います。

* その他

じっと座って聞いている学習ほどつまらないものはありません。学習者ができるだけ多く発話し、動くものにしたいと考えました。

たとえば、プラン1で使う世界地図をA1サイズに拡大コピーしホワイトボードに貼って、先におもちゃの飛行機を付けた指し棒を使って「ブラジルから来ました。」「飛行機で来ました。」といった練習をしています。教室が狭かったら、机の上に広げて立ってしてもいいですね。学習者と一緒に体を動かすと、心も一緒に動いて仲良くなれるような気がします。

そんな気持ちから、動きを大切に教材をいくつか作ってみました。

大カレンダーは常に教室に出してあり、各グループが様々な取り組みに使っています。次は大きな針をヨイショと動かす大時計作成を計画しています。



⑤ 対訳表

教室活動プランで使った言葉や表現について、学習者と協力して対訳表を作りました。今回は参加人数の多い4カ国のことばを掲載しましたが、現在ベトナム語とスペイン語の翻訳に取り組んでいます。

場合によってはいくつもの訳がありますから、この作業に興味をもった学習者とスタッフが話しながら訳していきました。いつもとは一味違う日本語活動ですし、これから日本語を学ぶ人たちの支えになることですから、みんな生き生きと取り組んでいました。翻訳の確認作業を

教室外の外国人市民にお願いしました。やはり自分が誰かの役に立つということを実感できてとても喜んでいました。

対訳表に、学習者自身が自分に分かりやすい表記で発音を書き込んでもらうために、1列右上を空欄にしました。この対訳表を毎回終了時にお土産として渡します。家庭で少しでも復習してくれたら嬉しいです。さらに、発音を忘れた時や確認したい時に、身近にいる日本人にこの対訳表を見せて、ちょっとしたサポートが受けられたら素敵ですね。

また、活動中に意図していることがなかなか分かってもらえなくて、固まってしまったような場合には、この対訳表の該当する部分を示して理解してもらってください。

⑥ 修了証



初級1コースの5回全てに参加した学習者には、活動時の写真などを入れた修了証を作って渡します。

教室全体の取り組みとして修了式を行い、学んだことの発表の場として簡単な自己紹介のスピーチをしてもらいます。

右の修了証は、先日帰国する学習者に差し上げたものです。教室を離れる時、なにか記念になるものが欲しいという要望があり作り始めました。

教室参加最後の日、教室終了時に少し時間を作って、全員が見守る中で渡してスピーチしてもらいます。皆さん緊張して恥ずかしそうですが、とても誇らしげでした。

教室の仲間全員で、新生活への旅立ちを応援し見送りました。



1 自己紹介しよう。



はじめまして
ひまわり です。

1 自己紹介しよう。

*こんばんは 〇〇です。
*国は 〇〇です。
*家は 〇〇です。
*〇〇で 来ました。
*どうぞ よろしく！

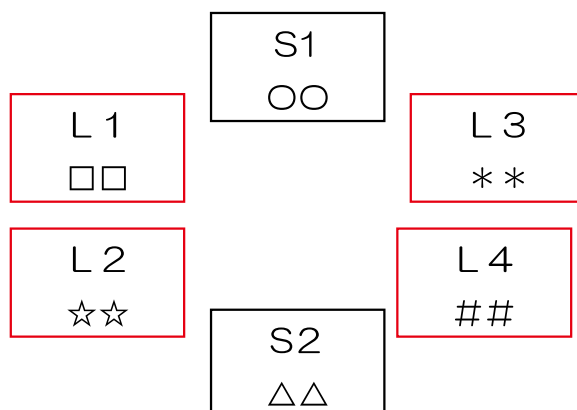
*すみません お名前は？
*〇〇さん お国は？
*〇〇さん 家は？

* まず、学習者が安心して声を出ることができるように、緊張をほぐし和やかな雰囲気を作りましょう。

(1) 自己紹介 (自分の事を言う編)

① 名前だけを言う・・・〇〇・□□・☆☆・・・

S=スタッフ
L=学習者



*こんな雰囲気になれば素敵ですね。恥ずかしかったら、手はつながなくてもいいですよ。

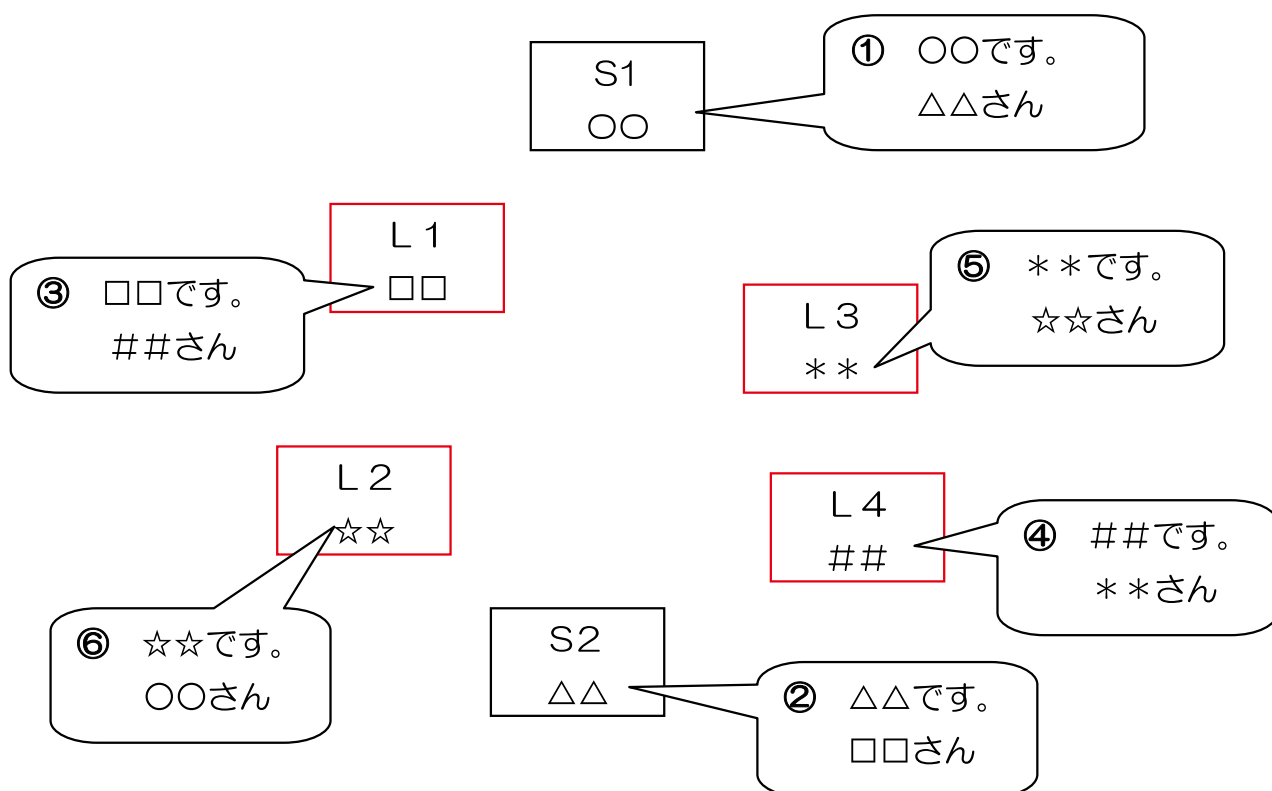


- ・ S1・S2 は名札をつけてください。まず全員で手をつなぎ、S1・S2 が対極になるような円を作りましょう。
- ・ S1 が笑顔で参加者の顔を見て話しかけます。名札を示したり胸に手を置いたりして、**名前だけ**をゆっくり繰り返します。
- ・ 名前だと気づいたような学習者がいたら、「あなたは？」という感じで促し、いなかったらS2 にふって自分の名前を言ってもらいます。
- ・ 一人ひとりに自分の名前を言ってもらいます。
- ・ 全員が参加者の名前をちゃんと聞き取って言えるようになるまで、何度でも言ってもらいましょう。

- ・全員の名前が言えるようになったら、一人ひとりの名前を覚えられるように、テンポよくゲーム感覚で全員の名前を繰り返します。

＜たとえば＞

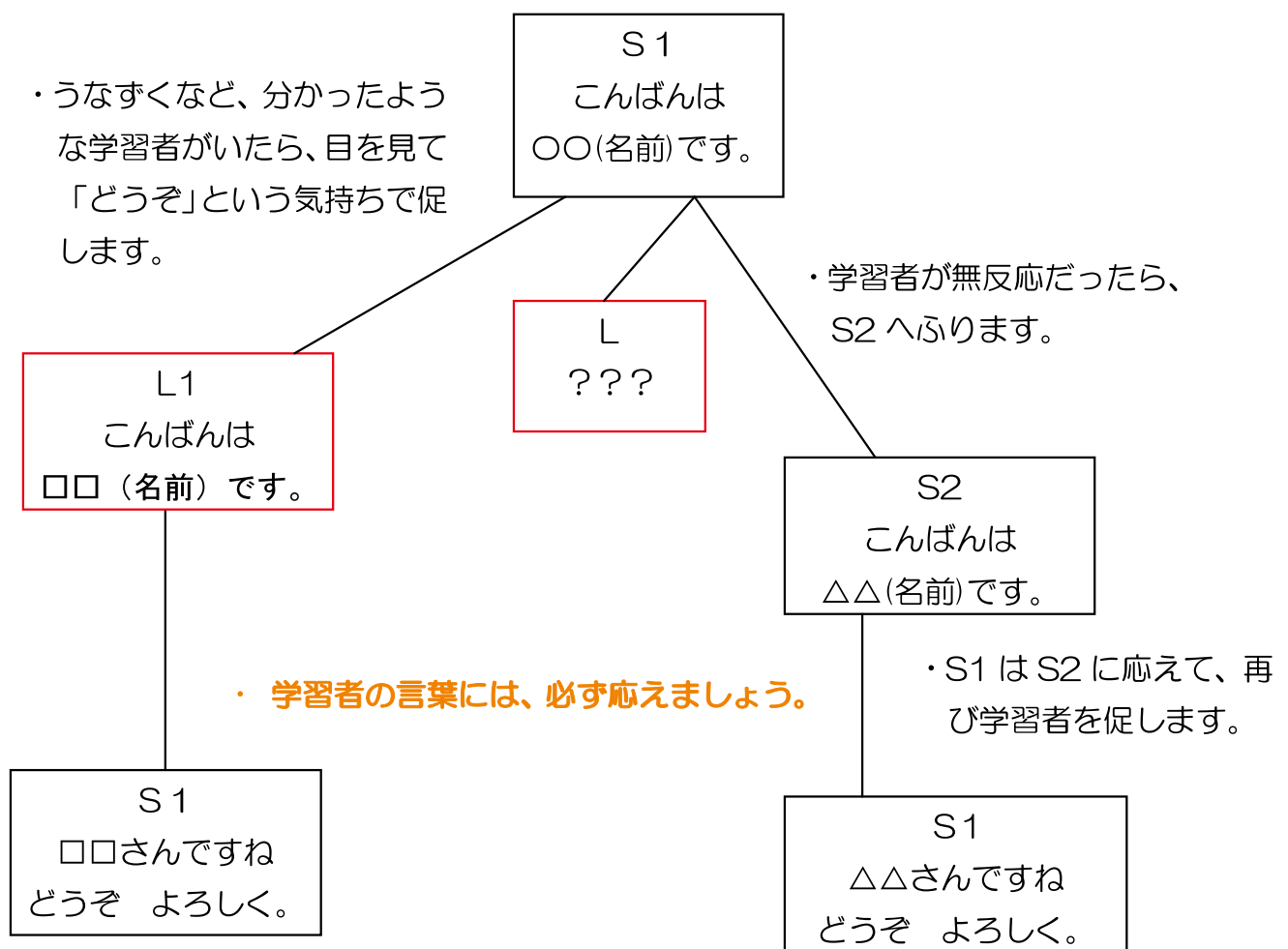
- ・ S1 は自分の名前を言ってから S2 のところに行き、肩に手を置くなどタッチして「△△さん」と呼びかけます。
- ・ 呼びかけられた S2 はうなずいて「△△です。」と応え、L1 のところに行って同様に呼びかけます。
- ・ 次々と自分の名前とメンバーの名前を言いながら、立ち位置を変えていきます。



言葉と身体でふれあいましょう。
 ボールを投げたり、マイクを渡したり
 工夫して楽しんでね。
 でも、教室の状況・学習者やスタッフの個性
 などが、毎回違うと思います。
 臨機応変に取り組んでくださいね。

② 挨拶して名前を言う・・・こんばんは／こんにちは〇〇です。

- ・ 参加者の間に打ち解けた雰囲気ができたら席について、スタッフ 1 が学習者に向かって話しかけます。
- ・ 学習者が分からなかったり上手くできなかったりした場合は、スタッフ 2 に話しかけてスタッフ 2 が例を示し、再び学習者に話しかけてください。
- ・ 学習者 1 が話したら、学習者 2・学習者 3・・・へ同様に話しかけます。



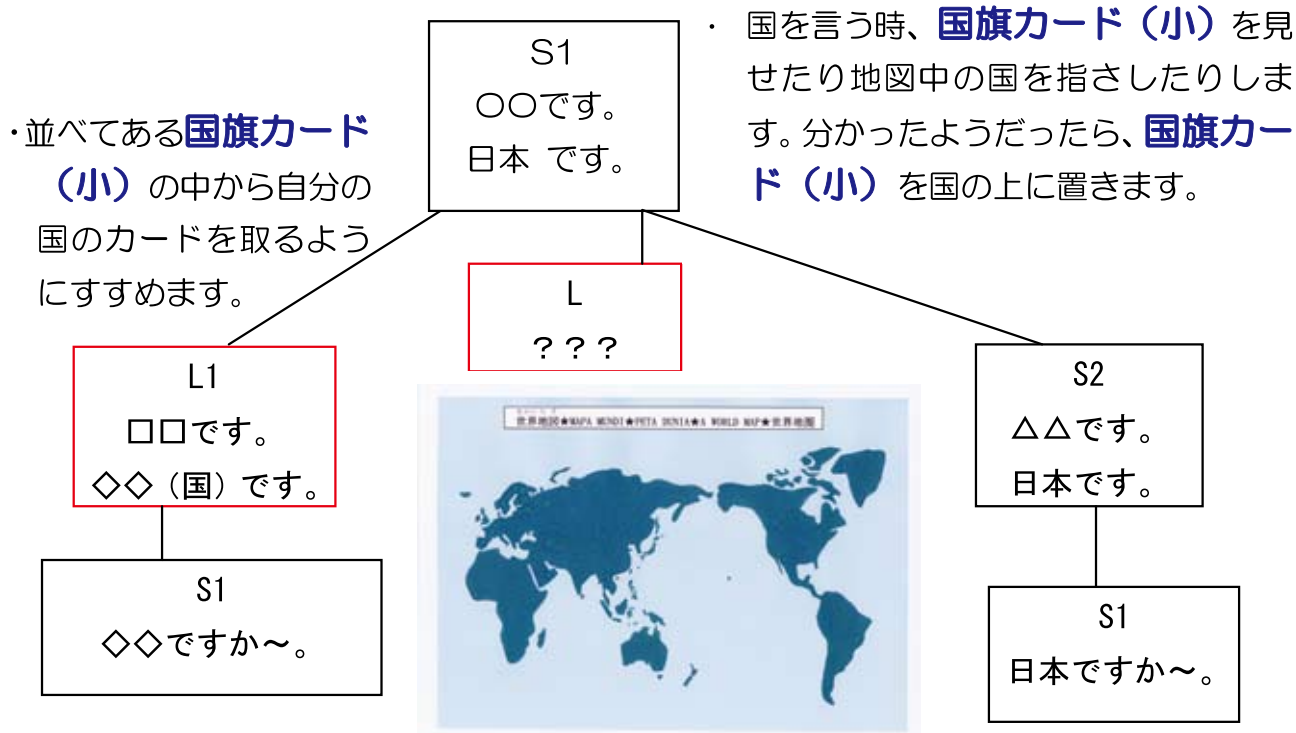
- ・ 学習者全員に S1・S2 が挨拶します。



S2 は、S1 が挨拶している間に、名札に学習者の名前を書き入れ、自分が挨拶する時に「□□さん、どうぞよろしく。」と言いながら名札を渡しましょう。

③ 出身国（出身地）を言う・・・日本です。

・前のセクションと同様にすすめます。**世界地図と国旗カード（小）**を机の上に置いたり、ボードにはったりして使います。



世界地図

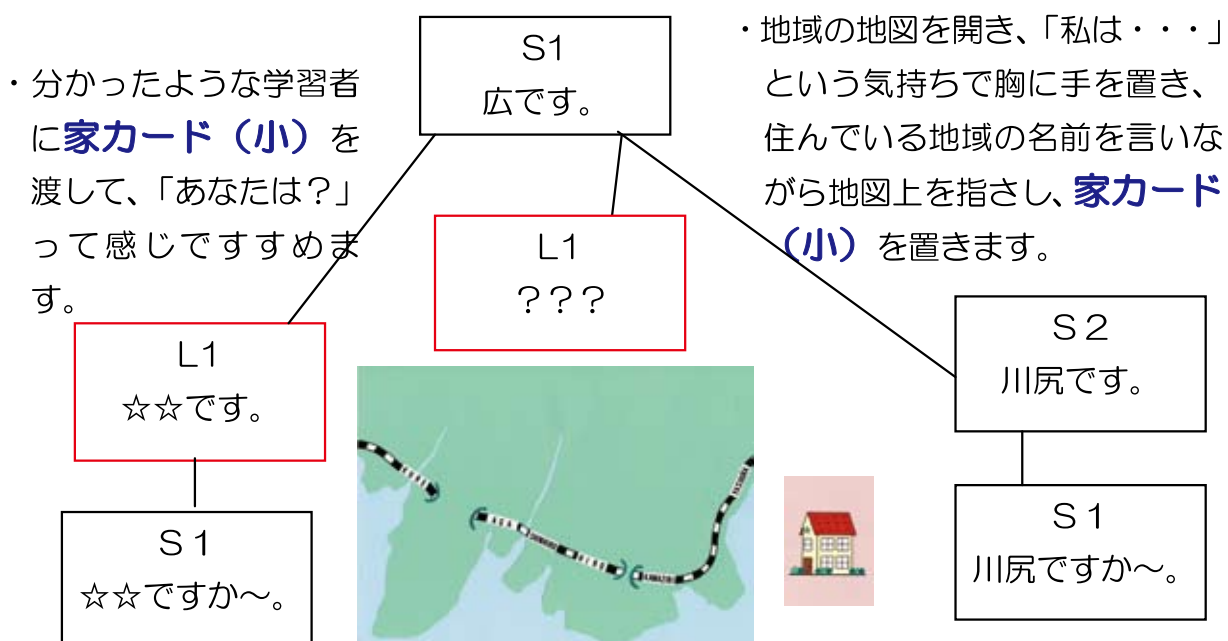


家カード

④ 住んでいる所を言う・・・広です。

地域の地図と家カード（大・小）を使います。

・「いえ」と何回か言いながら**家カード（大）**を見せます。



地域の地図上には人数分の家カード（小）が残ります。

⑤ 日本語教室までの交通手段を言う・・・自転車で来ました。

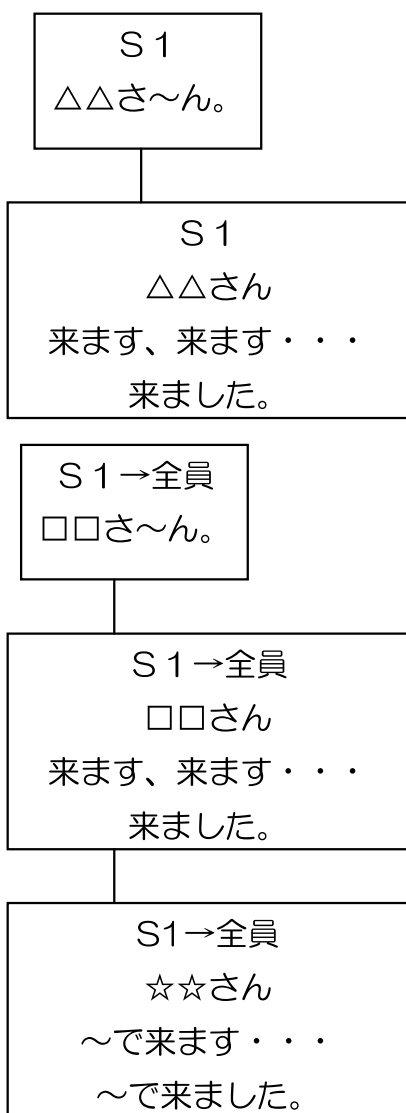
地域の地図・乗り物カード・乗物付指し棒を使います。

- ・ 学習者が教室へ来る時の手段をカードにします。**乗り物カード（大）**を用意して、名前を言います。工夫して何度も言ってもらいましょう。



乗り物カード

- ・ 教室内の少し離れた壁に、S2が**家カード**を拡大したものを貼ります。



- ・ S2は、S1に呼びかけられたら、グループのところに戻ります。



歩きますカード

- ・ 学習者にもS2と同様に行動してもらい、全員で「□□さん 来ます、来ます・・・ 来ました。」をくり返します。
- ・ 「来ます。来ました。」が理解できた様子になったら、**乗り物カード**を持って移動してもらい、「～で来ました。」に変えます。
- ・ 最後に歩きますカードを出して「歩いて来ました」を加えます。

・ 分かったような学習者に指し棒を渡し、並べてある**乗り物カード(小)**を選んでもらいます。

S1
広です
自転車で来ました

L1
☆☆です。
××で来ました。

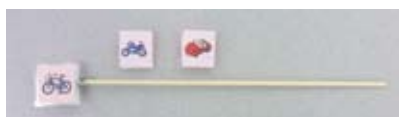
L1
???

S2
川尻です
電車で来ました。

S1
ああ～××ですか～

S1
ああ～電車ですか～。

・ **地域の地図**上に**日本語教室のカード(小)**を置き、S1の家から教室まで**乗り物カード(小)**を指し棒につけて、まっすぐ移動させながら言います。



乗物付指し棒



乗り物カードを加工して、つけはずしができるものを作りました。紙粘土・竹の棒・鉛筆キャップを使った簡単なものですが、活動が盛り上がりますよ。

地域の地図



⑥ 練習



ここまでをグループ内で発表しあいましょう。

S1
こんばんは
〇〇(名前)です。
国は、日本です。
家は広です。
自転車で来ました。
どうぞ、よろしく。

- ・ S1が**名札・国旗カード・家カード・乗り物カード**を持って見せながら、学んだことを確認しながら自己紹介、「どうぞ、よろしく」と挨拶します。

全員
どうぞ、よろしく。

- ・ S2 が中心になって「どうぞ、よろしく」と応えます。

S2
こんばんは
△△(名前)です。
・・・
・・・
・・・
どうぞ、よろしく。

- ・ S2・L1 と、次々に挨拶していきます。

全員
どうぞ、よろしく。

L1
こんばんは
□□(名前)です。
・・・
・・・
・・・
どうぞ、よろしく

全員
どうぞ、よろしく。

(2) 自己紹介(聞かれて答える編)

① すみません、お名前は？

?カードを使います。

S1
すみません、
お名前は？

- ・ 首をかしげ**?カード**を見せながら、S2 に話しかけます。

S2
△△です。

S1
△△さんですね。



S1
すみません、
お名前は？

- ・ 首をかしげ**?カード**を見せながら、L1 に話しかけます。

反応がない時は、S1 が自分の胸に手をやり「名前」「〇〇」を繰り返し、もう一度話しかけます。

L1
□□です

S1
□□さんですね。

- ・ L 1 に**?カード**を渡し、L 2 に語りかけるようにすすめます。

- ・ 次々に**?カード**を渡しながらくり返します。

② OOさん、お国は？

?カードと**国旗カード**を使います。

- **?カード**と**国旗カード**をいくつか上げながら、L1 に語りかけます。前のセクションのように続けます。



L1
△△さん、お国は？

S2
国は、日本です。

L1
ああ～日本ですね。

S1
□□さん、お国は？

L1
◇◇です

S1
ああ～◇◇ですね。



- L1 に**?カード**を渡して、S2 に問いかけるようにすすめます（どうぞって感じで…）。
- **?カード**を渡して行って、どんどん練習しましょう。



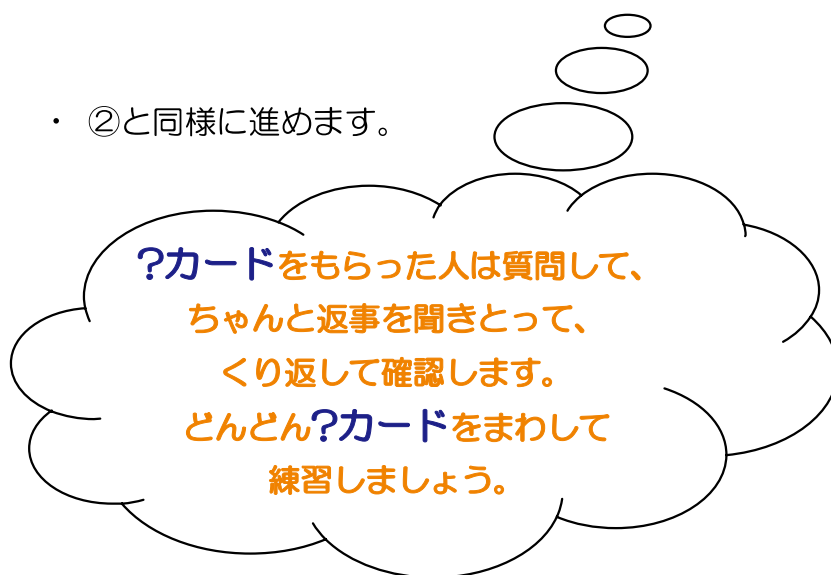
③ OOさん、家は？

S1
□□さん、家は？

L1
家は、〇〇です。

S1
ああ～〇〇ですね。

- ②と同様に進めます。



④ 練習

教室のスタッフに声をかけておいて、協力してもらいましょう。
教室を開いている施設の職員にお願いしてもいいですね。



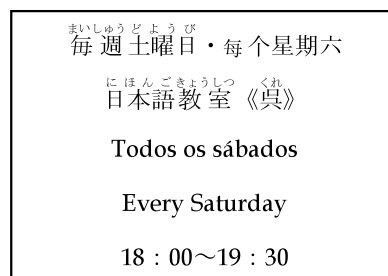
- ・ S1・S2がそれぞれ学習者に付き添って他のグループのところに行きます。
「すみません、ちょっといいですか？」とお願いをしてから、自己紹介をさせてもらいます。終わったら「ありがとう」とお礼の挨拶を忘れないで！

(3) 名前を書こう

名刺・名前練習シートを使います。



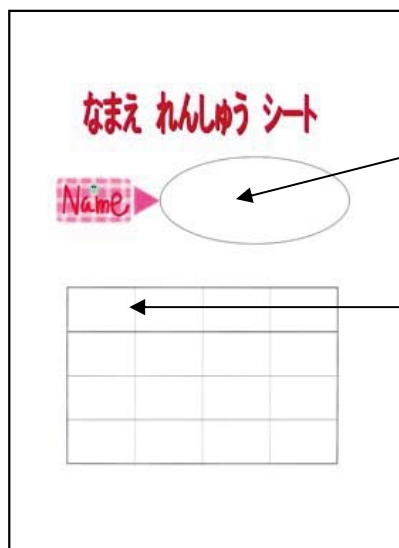
スタッフ名刺表面



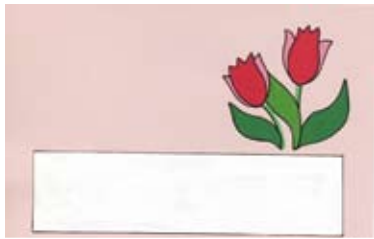
裏面

S1/S2
〇〇です
どうぞ よろしく。

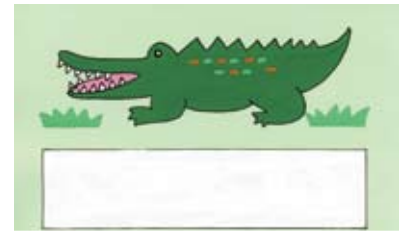
- ・ S1・S2 は自分の名前を言いながら、**名刺**(漢字・ひらがな・ローマ字・裏に教室の日時)を渡します。



- ・ 学習者に**名前練習シート**を渡し、母語で名前を書いてもらいます(どうぞ、お願い…って感じで)。
- ・ 読み方を確認して、スタッフがひらがなかカタカナで、表の上部に書きます。



名刺表面



まいしゅうどようび
毎週土曜日・毎星期六
にほんごきょうしつ
日本語教室《呉》
Todos os sábados
Every Saturday
18:00~19:30

名刺裏面

- 好きなデザインの**名刺**をグループの人数分選んでもらって、名前練習シートを見ながらひらがな・カタカナで、名前を書いてもらいます。

L
□□です。
どうぞ よろしく。

S
こちらこそ
どうぞよろしく。

母語文字カード(表)

Obrigado(a)
謝謝
...

(裏)

ありがとう

全員
ありがとう。
さようなら
また来週

- 作った**名刺**を使って挨拶します。



名刺のデザインは、絵を描くのが好きな学習者に手伝ってもらって用意しましょう。

- 最後に**母語文字カード**を見せながら、全員でしっかり挨拶をして終わります。

- 名刺**と**名前練習シート**を渡して、次回参加時に受付で名前が書けるように、シートで練習し名刺を持参してもらいましょう。
- 名札**は**受講カード**と共に教室に保管します。



自己紹介 応用編

時間が余ってしまった、既習の学習者が多いといった場合などに取り組んでみてください。 **人物カード・?カード**を使います。

L1

すみません、
お名前は？
お国は？
家は？
・
・
・

- ・ S1 が**人物カード**を自分の顔の前に出します。
- ・ L1 に**?カード**を渡して、質問するようにすすめます。
分からないようだったら、S2が**?カード**を持ってS1 に質問します。
- ・ S1 は、**人物カード**の人になりすまし、カードの裏に書いてある情報に基いて答えます。
- ・ 書き込む情報・文字については、いろんなバージョンで作っておいて、さまざまな表現の練習に役立ててください。



身近な学習者やスタッフをお願いして
モデルになってもらいましょう。
情報の収集は、教室活動の一つとして
学習者に取り組んでもらいましょう。

S1
ヘケです。
ブラジルです。
広です
・
・



人物カード

NAMAE・・・RECK
KUNI・・・・BRASIL
IE・・・・HIRO



裏面



?カード

上記ができれば、学習者に**人物カード**を渡して、S1・S2 が質問します。

もし、2 回目の学習者あるいは、ある程度できる学習者であれば、この練習は、「こちらは…」のような友人紹介形式の練習にします。